テーブル⑥　福腎協（患者会）

テーマ：一緒に聴こう、考えよう！
～患者の声から考える腎不全医療と看護～

【企画内容】

患者さんや家族が、病気や治療、生活の中で感じていることを共有し、その声を医療や看護、多職種との協働にどのように活かしていくかを考える。

患者・家族・医療者・多職種が同じテーブルを囲み、それぞれの立場から自由に語り合うことで、お互いの思いや考えを知り、これからの腎不全医療と看護、患者支援についてともに考える機会とする。

・患者さんや家族による体験発表を行い、実際に病気や治療とともに生活する中で感じていることや、医療者に伝えたいことについて話していただく。
その体験をきっかけに、患者・家族・看護師・多職種が同じテーブルで自由に語り合う。

主なテーマとして、

・私や家族が、医療者に知ってほしいこと、伝えたいこと、考えてほしいこと
・治療を続けながら生活する中で、困っていることや支えになったこと
・患者さんが大切にしている生活や思いを、医療や看護にどのようにつなげていけるか
・患者会、医療者、多職種が協力してできることは何か

などについて、それぞれの立場から話していただく。

患者さんや家族から直接声を聞くことで、医療者側だけでは気づきにくい患者の生活や思いを知り、「患者さんとともに考える医療・看護」について参加者全員で考える場としたい。

★みなさんへ個人情報保護の注意をお願いする。

【タイムスケジュール】

10:00～10:10

1. 福腎協（患者会）の紹介・趣旨説明

・福腎協の活動について簡単に紹介（福腎協より）
・患者会やピアサポートの役割について
・今回のワークショップの目的について説明

10:10～10:35

2. 患者さん・家族による体験発表

発表内容は、

・病気や治療とともに生活して感じていること
・治療を続ける中で困ったこと
・医療者の関わりで支えになったこと
・医療者に知ってほしい、伝えたいと思っていること
・これからの医療や看護に期待すること。

など、発表者自身の経験を自由に話していただく。

10:35～11:20

3. 意見交換・語り合い

患者さん・家族の体験発表を受けて、参加者全員で自由に語り合う。

・体験発表を聞いて感じたこと
・患者さんと医療者との間にある思いや認識の違い
・患者さんの声を日々の医療・看護にどう活かせるか
・患者会と医療者、多職種がどのようにつながることができるか
・患者さんが治療を続けながら、その人らしく生活するために何ができるか

などについて、答えを出すことを目的とせず、それぞれの経験や思いを語り合う。

4. まとめ・振り返り

ワークショップを通して感じたことや気づいたことを、参加者同士で自由に意見交換する。患者さんを「支援される側」としてだけ捉えるのではなく、患者・家族・医療者・多職種がそれぞれの経験や知識を持ち寄り、ともに腎不全医療と看護を考えていくことの大切さを共有して終了する。

【準備物品・資料等】

・福腎協の活動紹介資料
・患者さん・家族の体験発表資料
・福腎協会報誌等

担当者：林田、桐明